

マルタとマリア

ルカによる福音書 10:38-42

(そのとき、) イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主は答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

説教

福音書は肝心ところというか、一番知りたいところになると「書いていない」ことがあります。

マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。ルカ 10:39b

いったいマリアは主の足もとで、イエスが語るどんな話に聞き入っていたのでしょうか。いままでわたしはマリアは何人かの弟子と一緒にイエスの話(=福音、たとえば山上の説教の一部とか)を聞いていたのだと思い込んでいました。でも今回読み返していて、イエスはマリアと二人だけに話をしていたのかもしれないと気付きました。もしこのときマリアだけに話をしているとすると…

主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。ルカ 10:40

マルタはこんな風にイエスに食って掛かりますが、妹が怠け者で困るということイエスに詰め寄っているのでしょうか。イエスとマリアが二人だけで

話をしているのを、台所仕事をしながらつい聞いてしまい、マリアがイエスのその話を聞くことを辞めさせようとして、マルタはイエスとマリアの間に割って入ったのかもしれないということも考えられます。

「マルタとマリア」の話は福音書では、きょうのルカ福音書 10 章と、もうひとつはヨハネ福音書の 11 章、12 章にでてきます。（11 章は彼女たちの兄ラザロの死と蘇りの話で、12 章はエルサレム入城の一週間前の出来事で、マリアがイエスに香油を塗る話です）

また、マリアという名の女性は福音書では何人も登場します。イエスの母親もマリアですが、マグダラのマリアも福音書のなかでは重要な登場人物です。マルタとマリアの姉妹としてルカとヨハネの福音書にでてくるこのマリアがマグダラのマリアと同じ人だと仮定すると、ここでイエスがマリアと話している内容はイエス自身の受難についてかもしれません。福音書によれば、イエスの受難のとき、最期を見届けたのはマリアたち（同じマリアという複数の女性）でした。そして復活のイエスに最初に会うのはマグダラのマリアです。ここでイエスがマリアに受難後の行動の指示していて、マリアが「その話に聞き入って」いたとしたら、そのようすを耳にしたマルタはびっくりしてイエスに詰め寄ってなんかいうでしょう。受難予告を聞いたペテロの反応は共感福音書ではこうなっています。（マタイ 16:21 以下、マルコ 8:31 以下、ルカ 9:22 以下）マルコから引用してみます。イエスの受難予告の直後、

ペテロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。 マルコ 8:32b

そしてこの意見をいったこと、いさめたことで厳しく叱られました。

ペテロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」 マルコ 8:33

ルカ 10 章でのマルタはイエスに「手伝ってくれるようにおっしゃってください。」とマリアのことについてイエスに意見をもとめ、イエスはやさしくマルタにこう諭しました。

主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱

している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」 10:41-42

聖書の文面からではマルタの「思い悩み、心乱れ」はマリアがお勝手仕事を手伝わないからとしか読めませんが、そんなことでイエスがマルタにこんなことを言うわけないでしょう。だからこう想像してみます。

イエスはマリアに受難予告をし、その後の指示をマリアにしていた、つまり香油を塗ること、処刑時に立ち会うこと、埋葬のこと、三日後のことをマリアに伝えていたのかもしれませんが。それをマルタが聞いたとすれば「思い悩み、心乱れ」てしまうのは当たり前です。

必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。 ルカ 10:42

十字架にかかり、死んで三日後に復活する、これがここでイエスが語る必要な「ただ一つ」のことだとすれば、マリアが選んだ「良い方」とはちょっと抽象的な言い方になりますが、それはマリア自身の十字架です。

わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。

マルコ 8:34b

マルタはマリアの十字架を取り上げることはできません。逆にいえば、マルタもこのことによりマルタ自身の十字架を背負ったことになります。

主役はただお一人ですが、脇役は何人も必要です。必要なことがただ一つだけだとすれば、よけいに主役はただ一人です。何人も主役がいてははなしがややこしくなるだけです。そして脇役にもそれぞれに重要な役割があります。マリアの役割、マルタの役割、一人ひとりにふさわしい役割が振り分けられている、そんなことをきょうの福音から読み取ることができます。
